

かねよし

ファイバー レーザー 10キロワット機導入

高速加工体制を強化

一般鋼材やステンレス、アルミの加工販売を行うかねよし(本社、埼玉県川口市、吉田竜一社長)はこのほど、出力10キロワットのファイバーレーザー切断機を新設した。昨年設置した8キロワット機に続く高出力機の投入で、高速加工体制をさらに強化した。

来月には、鋼板の折り曲げ加工を自動で行う「パネルベンダー」を導入することが決まっており、加工領域を一層拡充し、新たな需要を取り込む。新設したファイバーレーザー切断機「TruLaser 5030 Fiber」は省エネと高速加工が特長で、5×10サイズまで対応。トルンパ社のファイバーレーザーでは最大となる出力10キロワットの搭載し、軟鋼とアルミは板厚30ミ、ステンレス鋼は40ミまで切断可能。今回の新設で、レーザー切断機は全7基となった。

高出力機を導入する狙いについて、吉田社長は「加工スピードが全く違う」と語る。同社は昨年も出力8キロワットのファイバーレーザー切断機を2基設置しており、高出力機が3基揃ったことで、従来の小ロットや一品一様の注文だけでなく、ロットの大きいものでも特急対応が容易となった。先月には急ぎの依頼のあった高級ブランド店向けの装飾金物数百枚を1週間で作上げて納入している。

来月導入予定のパネルベンダーはトルンパ製で、板厚最大3・2ミの5×10サイズ仕たい」と話している。

様。折り曲げ加工はレーザー加工と並ぶ同社の主力事業であり、ベンダーは4基保有しているが、パネルベンダーの導入により、複雑かつ精密な加工の自動化や品質の安定化などにつなげたい考えだ。



「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策に日本製鉄グループの商品、工法で貢献するとともに、その後を見据えしっかりとPRしていきたい」と話すのは、日本製鉄の堀田穰・建材営業部長。2日、「日本製鉄四国建材会」に出席するため、香川県高松市を訪れた。

堀田穰・日本製鉄建材営業部長

国土強靱化、

▽7月に完成したばかりの「日本製鉄グループの『国土強靱化』ソリューション」を紹介するカタログ第3弾。これまで国土強靱化に対応するカタログの内容は土木分野が中心だったが、今回は鉄骨造・鉄鋼建材による災害対策へのソリューションを中心にグループ各社の「災害に強く、安心・安全な建築物を実現する商品・工法」を掲載した。企画段階から、事務局の立場で各社の調整

機械受注14

増加幅最大、

内閣府が14日発表した6月の機械受注統計(季節調整値)によると、企業の設備投資の先行指標となる民間需要(変動の大きい船舶・電力を除く)の受注額は前月比13・9%増の9603億円だった。2カ月ぶりに前月を上回り、プラス幅は比較可能な2005年4月以来で最大。製造業は1・7%減

鋼材輸入申請

米、前月実績比75%増

7月357万ト 厚板伸び顕著

米鉄鋼協会(AISI)によると、米商務省がまとめた7月の輸入監視データで、鋼材輸入申請量は357万4000ネットトと前月実績比75・1%増えた。鋼材最終製品は188万2000ネットトと8・9%増えた。17月は全体が1921万3000ネットトと前

年同期比8・0%減、最終製品が1357万5000ネットトと16・2%減だった。最終製品の推定輸入シェアは7月で19%、7カ月で21%としている。最終製品の7月の輸入申請で前月の伸びが大きかったのは厚板の56%増だった。ライオンパイプは33%増、コイル厚板は28%増、熱延棒鋼は25%増、溶融亜鉛めっき鋼板は22%増などだった。7カ月はブリキ原板が前年同期比64%増、鋼製杭が43%増、ティンフリーが19%増だった。

国別に7月の最終製品の輸入申請で最大は韓国で、20万2000ネットトと前月比24%増えた。日本は9万6000ネットトと15%減、台湾は8万1000ネットトと6%減、ドイツは7万8000ネットトと22%減、ブラジルは7万5000ネットトと39・1%増だった。7カ月では韓国が16万5000ネットトと前年同期比15%減、日本は81万9000ネットトと6%減、ドイツは69万4000ネットトと8%減だった。